

Tu vois タイプの談話標識と Heureusement タイプの文副詞の統辞的比較

— 間投詞化と非間投詞化 —

川 島 浩 一 郎*

1. はじめに

Tu vois という表意単位の実現形は、文と共に起することもあれば、従属節と共に起することもある。たとえば (1) における tu vois は、tu recommences という文と共に起している。(2) における tu vois は、(que) tu es très occupé という従属節と共に起している。

(1) *Tu vois, tu recommences !* (Marc Levy, *Mes amis Mes amours*, Collection Pocket, 2006, p.295)

(2) *Tu vois que tu es très occupé.* (Véronique Beaumont, *Un travail en or*, Lulu Presse, 2014, p.33)

談話標識としての実現形が従属節と共に起可能な実現形であるとき、それを Tu vois タイプの談話標識と呼ぶことにしよう。つまり (1) の tu vois は、Tu vois タイプの談話標識である。Tu vois という表意単位の実現形は、(1) と (2) にみられるように、文および従属節と共に起することができる¹。

(3) Warren était *heureusement* un garçon rationnel, [...]. (Maxime Chattam, *Le 5e règne*, Collection Pocket, 2003, p.70)

* 福岡大学人文学部教授

¹ 表意単位と「表意単位の実現形」を、本稿では、できるだけ区別して記述する。

- (4) *Heureusement* que j'ai mes fleurs... (Anna Gavaldà, *Ensemble, c'est tout*, Collection J'ai lu, 2004, p.495)

Heureusement という表意単位の実現形は、文と共起することもあれば、従属節と共起することもある。たとえば (3) における *heureusement* は、*Warren était ... un garçon rationnel* という文と共起している。(4) における *heureusement* は、(que)*j'ai mes fleurs* という従属節と共起している。

文副詞の実現形が従属節と共起可能な実現形であるとき、それを *Heureusement* タイプの文副詞と呼ぶことにしよう。つまり (3) の *heureusement* は、*Heureusement* タイプの文副詞である。*Heureusement* という表意単位の実現形は、(3) と (4) にみられるように、文および従属節と共起することができる。

本稿では、*Tu vois* タイプの談話標識と *Heureusement* タイプの文副詞を、間投詞的な性格の有無という統辞的な観点から比較する。間投詞は独立的な実現形である。また、従属節として用いることのできない実現形でもある。つまり従属節として使用できない独立的な実現形であることを、本稿では、間投詞的な性格と考える。

2. 間投詞記号素的性格

2.1 独立的な性格

他の実現形の存在を前提とせずに出現していることは、表意単位の実現形が統辞的に独立していることの定義である。表意単位の実現形が、他の実現形の存在を前提とせずに出現している実現形であれば、それは独立的な実現形である。反対に、表意単位の実現形が独立的な実現形であれば、それは他の表意単位の実現形の存在を前提とせずに出現している実現形である。たとえば (5) の *merci* や (6) の *bah* は、独立的な実現形であると言ってよい。これらの実現形は、他の実現形の存在を前提とせずに出現している。

(5) Merci. (Jean-Patrick Manchette, *La princesse du sang*, Collection Rivages/Noir, 1996, p.180)

(6) Bah. Je plaisantais. (Jean-Patrick Manchette, *La princesse du sang*, Collection Rivages/Noir, 1996, p.88)

間投詞として実現する表意単位を、間投詞記号素と呼ぶ。たとえば (5) の merci や (6) の bah は、間投詞記号素の実現形である。

間投詞記号素は、統辞的に独立的な表意単位である。つまり間投詞記号素は、その実現形の出現が、他の表意単位の実現形の存在を前提としなくてよい表意単位である。間投詞記号素の実現形は、統辞的に独立した実現形として現れうる。たとえば (5) の merci や (6) の bah の使用は、他の表意単位の実現形の存在を統辞的な前提としていない。

(7) Arrête. (Sylvie Testud, *Gamines*, Collection Le Livre de Poche, 2006, p.27)

(8) — Avec Victor ? — Oui. (Jean-Patrick Manchette, *La princesse du sang*, Collection Rivages/Noir, 1996, p.139)

動詞記号素や命題記号素も、間投詞記号素と同じく、統辞的に独立的な表意単位である。動詞記号素は、動詞を実現形とする表意単位である。命題記号素は、oui, si, non を実現形とすることのできる表意単位である²。動詞記号素や命題記号素は、その実現形の出現が、他の表意単位の実現形の存在を前提としなくてよい。たとえば (7) の [aʁɛt] は、動詞記号素の実現形である。この [aʁɛt] の出現は、他の実現形の存在を前提としていない。(8) の [wi] は、命題記号素の実現形である。この [wi] の出現は、他の実現形の存在を前提としていない。

(9) La police vous dit merci. (Pierre Siniac, *Femmes blafardes*, Collection

² 命題記号素という概念について、Martinet (1979) や Martinet (1985) を参照。

Rivages/Noir, 1981, p.104)

(10) Tôt ou tard, elle se fera *arrêter*. (Maxime Chattam, *Maléfices*,
Collection Pocket, 2004, p.630)

(11) Votre bouche dit *non* mais vos yeux disent *oui*. (Guillaume Musso,
Et après..., Collection Pocket, 2004, p.127)

ただし、統辞的に独立的な表意単位（間投詞記号素、動詞記号素、命題記号素など）の実現形が、いつも独立的な実現形として現れるとはかぎらない。実際 (9) における merci、(10) における [aʁɛt] (arrêt-)、(11) における oui および non は、独立的な実現形ではない³。

2.2 従属節に出現しない性格

間投詞記号素の実現形を中心とする文を従属節として使用することは難しい。間投詞記号素の実現形を中心とする文は、間投詞文と呼ばれる⁴。たとえば (12) の merci、(13) の non merci、(14) の merci de la confiance、(15) の merci pour ce compliment, qui me touche は、いずれも、間投詞記号素の実現形である merci を中心とする文である。つまり間投詞文である。通常であれば、これらの間投詞文を従属節として用いることはない。

(12) Merci, [...]. (Jean-Patrick Manchette, *La princesse du sang*,
Collection Rivages/Noir, 1996, p.112)

(13) Non merci. (Jean-Patrick Manchette, *La princesse du sang*,
Collection Rivages/Noir, 1996, p.112)

(14) Merci de la confiance. (Pierre Siniac, *Femmes blafardes*, Collection
Rivages/Noir, 1981, p.92)

³ Tu vois タイプの談話標識における自律と非自律の弁別について、川島 (2021a) や川島 (2021b) を参照。

⁴ 間投詞文の独立性について、川島 (2004) を参照。

- (15) Merci pour ce compliment, qui me touche. (Patrice Leconte, *Les Femmes aux cheveux courts*, Collection Le Livre de Poche, 2009, p.48)
- (16) J'ai faim. (Fred Vargas, *Sans feu ni lieu*, Collection J'ai lu, 1997, p.184)
- (17) Je crois que *j'ai faim*, [...]. (Marc Levy, *Mes amis Mes amours*, Collection Pocket, 2006, p.151)
- (18) C'est possible que *oui*, c'est possible que *non*. (Fred Vargas, *L'homme aux cercles bleus*, Collection J'ai lu, 1996, p.81)
- (19) — On ne trouvera pas ce caillou. — Il dit que *si*. (Fred Vargas, *Dans les bois éternels*, Collection J'ai lu, 2006, p.106)

動詞記号素や命題記号素の実現形を中心とする文は、従属節として現れる可能性がある。動詞記号素の実現形を中心とする文は、動詞文と呼ばれる。命題記号素の実現形を中心とする文は、命題文と呼ばれる。たとえば (16) の *j'ai faim* は、動詞記号素の実現形を中心とする動詞文である。この *j'ai faim* は、(17) にみられるように、従属節として用いることができる。命題文としての *oui*、*si*、*non* は、(18) や (19) にみられるように、従属節として使用することができる⁵。

A un point de vue purement linguistique, et abstraction faite de toute considération de logique ou de psychologie, la phrase peut être définie : un ensemble d'articulations liées entre elles par certains rapports grammaticaux et qui, ne dépendant grammaticalement d'aucun autre ensemble, se suffisent à elles-mêmes. (Antoine Meillet, *Introduction à l'étude comparative des langues indo-européennes*, Hachette et Cie, 1903,

⁵ 命題記号素の実現形の間投詞化について、川島 (1999) を参照。

p.326)

It is evident that the sentences in any utterance are marked off by the mere fact that each sentence is an independent linguistic form, not included by virtue of any grammatical construction in any larger linguistic form. (Leonard Bloomfield, *Language*, Holt, 1933, p.170)

なお文という統辞的な単位は、他の表意単位の実現形から独立した表意単位の實現形全体として定義することができる。この文の定義は、上に引用した Meillet (1903) や Bloomfield (1933) による文の定義と、本質的には同一の論理に基づいていると考えられる。

以上の考察から、間投詞記号素は、その実現形を中心とする発話を従属節として使用することのできない独立記号素と考えることができる。間投詞記号素は、統辞的に独立的な表意単位である (2.1 を参照)。そして間投詞記号素の実現形を中心とする実現形は、通常、従属節として用いることが難しい⁶。

3. Tu vois タイプの談話標識と Heureusement タイプの文副詞の共通点

3.1 Tu vois タイプの談話標識

文に、談話標識としての *tu vois* が共起することがある。たとえば (20) における *nous sommes d'accord* は、文としてのステイタスを備えている (2.2 を参照)。つまり (20) においては、談話標識としての *tu vois* と文が共起していることになる。談話標識 *tu vois* と文が共起している状態を、記号化して *Tu vois, P* と表現することにしよう⁷。

(20) *Tu vois, nous sommes d'accord...* (Brigitte Aubert, *Transfixions*, Collection Points, 1998, p.215)

⁶ 間投詞記号素の独立性と非従属性について、Martinet (1979) や Martinet (1985) を参照。

⁷ *Tu vois* タイプの談話標識の統辞的な成立基盤について、川島 (2021c) を参照。

- (21) Alors *tu vois* que tu n'est pas d'accord pour tout ! (Marc Levy, *Mes amis Mes amours*, Collection Pocket, 2006, p.69)

従属節が直接目的辞として、*tu vois* という (談話標識ではない) 実現形と共起することがある。たとえば (21) においては、*tu vois* と (que) *tu n'est pas d'accord pour tout* が共起している。(21) における *que* は、従属接続詞記号素の実現形である。つまり (21) の *tu n'est pas d'accord pour tout* は、従属節だと考えてよい。*Tu vois* と従属節が共起している状態を、記号化して *Tu vois que P* と表現することにしよう。

Tu vois, P (談話標識 *tu vois* と文が共起している状態) と *Tu vois que P* (談話標識ではない実現形 *tu vois* と従属節が共起している状態) の間には、ある種の、統辞的な変形関係があると考えられる。*Tu vois, P* から *Tu vois que P* への変形は、いわば *P* の従属節化変形である。*Tu vois que P* から *Tu vois, P* への変形は、いわば *P* の主節化変形である⁸。

なお *Tu vois, P* と *Tu vois que P* の間の変形関係は、あくまでも統辞的な変形関係である。*Tu vois, P* と *Tu vois que P* の間に意味的な一致があるかどうか (意味的な対応がどこまであるのか) は、ここでは問題としない。

- (22) *Tu sais*, les plages c'est pas trop mon truc. (Maxime Chattam, *L'âme du mal*, Collection Pocket, 2002, p.28)

- (23) *Tu sais* que c'est très dangereux, les sectes ! (Nicole de Buron, *Chéri, tu m'écoutes ?... alors répète ce que je viens de dire...*, Collection Pocket, 1998, p.54)

Tu vois, P と *Tu vois que P* の間にみられるような変形関係をもちうる談話標識を、*Tu vois* タイプの談話標識と呼ぶことにしよう。たとえば談話標識としての *tu sais* は、*Tu vois* タイプの談話標識だと考えられる。たとえば (22)

⁸ 双方向的な変形関係について、Gross (1975) を参照。

では、談話標識としての *tu sais* と文 (*les plages c'est pas trop mon truc*) が共起している。また (23) では (*que*) *c'est très dangereux, les sectes* という従属節が直接目的辞として、*tu sais* という (談話標識ではない) 実現形と共起している。つまり *Tu sais, P* と *Tu sais que P* の間には、*Tu vois, P* と *Tu vois que P* の間にある変形関係と同様の変形関係を認めることができる。

3.2 *Heureusement* タイプの文副詞

文に、文副詞としての *heureusement* が共起することがある。たとえば (24) における *la station de métro n'était pas loin* は、文としてのステイタスを備えている (2.2 を参照)。つまり (24) においては、文副詞としての *heureusement* と文が共起している。文副詞としての *heureusement* と文が共起している状態を、記号化して *Heureusement, P* と表現することにしよう。

(24) *Heureusement, la station de métro n'était pas loin.* (Guillaume Musso, *Sauve-moi*, Collection Pocket, 2005, p.17)

(25) *Heureusement qu'elles sont là.* (Anna Gavalda, *Je voudrais que quelqu'un m'attende quelque part*, Collection J'ai lu, 1999, p.39)

従属節が、*heureusement* という実現形と共起することがある。たとえば (25) においては、*heureusement* と (*qu'*)*elles sont là* が共起している。(25) における *qu'* は、従属接続詞記号素の実現形である。よって (25) の *elles sont là* は、従属節だと考えてよい。*Heureusement* と従属節が共起している状態を、記号化して *Heureusement que P* と表現することにしよう。

Heureusement, P (文副詞 *heureusement* と文が共起している状態) と *Heureusement que P* (実現形 *heureusement* と従属節が共起している状態) の間には、ある種の、統辞的な変形関係があると考えられる。*Heureusement, P* から *Heureusement que P* への変形は、いわば *P* の従属節化変形である。*Heureusement que P* から *Heureusement, P* への変形は、いわば *P* の主節化

変形である。

なお *Heureusement, P* と *Heureusement que P* の間に認めることのできる変形関係は、あくまでも統辞的な変形関係である。*Heureusement, P* と *Heureusement que P* の間に意味的な一致があるかどうか (意味的な対応がどこまであるのか) は、ここでは問題としない。

(26) Tu as *peut-être* raison. (Dean Ray Koontz, *Miroirs de sang*, Collection Pocket, 1977, p.201)

(27) *Peut-être* que Ripert a raison. (Jean Echenoz, *Cherokee*, Minuit, 1983/2003, p.65)

(28) *Bien sûr*, Marc appartenait à la partie sombre de la classe. (Jean-Christophe Grangé, *La ligne noire*, Collection Le Livre de Poche, 2004, p.228)

(29) *Bien sûr* que tu peux. (Guillaume Musso, *Sauve-moi*, Collection Pocket, 2005, p.370)

Heureusement, P と *Heureusement que P* の間にみられるような変形関係をもちうる文副詞を、*Heureusement* タイプの文副詞と呼ぶことにしよう。たとえば文副詞としての *peut-être* は、*Heureusement* タイプの文副詞であると考えられる。(26) では、文副詞としての *peut-être* と文 (*tu as ... raison*) が共起している。また (27) では (*que*)*Ripert a raison* という従属節が *peut-être* と共起している。つまり *Peut-être, P* と *Peut-être que P* の間には、*Heureusement, P* と *Heureusement que P* の間にある変形関係と同様の変形関係を認めることができる。また (28) および (29) にみられるように、*Bien sûr, P* と *Bien sûr que P* の間にも、*Heureusement, P* と *Heureusement que P* の間にある変形関係と同様の変形関係を認めることができる⁹。

⁹ *Bien sûr que P* タイプの構文について、川島 (2008) を参照。

3.3 Tu vois タイプの談話標識と Heureusement タイプの文副詞のパラレルな関係性

文の従属節化および従属節の主節化という変形関係に関与しうる談話標識を、Tu vois タイプの談話標識と呼ぶことにしよう。Tu vois, P (談話標識 tu vois と文が共起している状態) と Tu vois que P (談話標識ではない実現形 tu vois と従属節が共起している状態) の間には、統辞的な変形関係を認めることができる (3.1 を参照)。たとえば (30) にみられるように、談話標識としての tu vois は、文 (*l'argent peut tout*) と共起することができる。また (31) にみられるように、tu vois という (談話標識ではない) 実現形は、従属節 (*qu'elle est verte de jalousie*) と共起することもできる。Tu vois, P から Tu vois que P への変形は、P の従属節化変形である。Tu vois que P から Tu vois, P への変形は、P の主節化変形である。

- (30) *Tu vois, l'argent peut tout...* (Nicole de Buron, *Chéri, tu m'écoutes ?... alors répète ce que je viens de dire...*, Collection Pocket, 1998, p.128)
- (31) *Tu vois bien qu'elle est verte de jalousie.* (Amélie Nothomb, *Antéchrista*, Collection Le Livre de Poche, 2003, p.106)
- (32) *Heureusement, la rue était peu fréquentée.* (Thierry Jonquet, *Du passé faisons table rase*, Collection Folio, 2006, p.131)
- (33) *Heureusement que la vie était belle.* (Philippe Djian, *37° 2 le matin*, Collection J'ai lu, 1985, p.237)

文の従属節化および従属節の主節化という変形関係に関与しうる文副詞を、Heureusement タイプの文副詞と呼ぶことにしよう。Heureusement, P (文副詞 *heureusement* と文が共起している状態) と *Heureusement que P* (実現形 *heureusement* と従属節が共起している状態) の間には、統辞的な変形関係を認めることができる (3.2 を参照)。たとえば (32) にみられるように、文副詞としての *heureusement* は、文 (*la rue était peu fréquentée*) と共起すること

ができる。また (33) にみられるように、heureusement という実現形は、従属節 (que la vie était belle) と共起することもできる。Heureusement, P から Heureusement que P への変形は、P の従属節化変形である。Heureusement que P から Heureusement, P への変形は、P の主節化変形である。

以上の観察により、Tu vois タイプの談話標識と Heureusement タイプの文副詞の間には、パラレルな関係性を設定することができる。Tu vois タイプの談話標識と Heureusement タイプの文副詞は、いずれも（定義として）文の従属節化および従属節の主節化という変形関係に関与しうるからである。

4. Tu vois タイプの実現形と Heureusement タイプの実現形における間投詞的性格の相違

4.1 Tu vois タイプの談話標識と間投詞的性格の有無

4.1.1 Tu vois タイプの談話標識と間投詞化

Tu vois タイプの談話標識を含んだ動詞文は、基本的に、従属節として使用することのできない実現形である。たとえば (34) の tu vois, tu mens aussi mal que moi という実現形（動詞文）は、それ全体を従属節として用いることのできない実現形である¹⁰。同様に (35) の tu sais, rien n'est plus complexe que d'élever un enfant という実現形（動詞文）は、従属節として用いることのできない実現形である。つまり Tu vois タイプの談話標識を含んだ実現形は、従属節として用いることができない独立的な実現形であるという点で、間投詞記号素的な実現形であると考えてよい (2.2 を参照)。

(34) *Tu vois, tu mens aussi mal que moi.* (Marc Levy, *Le voleur d'ombres*, Collection Pocket, 2010, p.136)

¹⁰ 談話標識 tu vois による間投詞化について、川島 & 肖 (2021) を参照。

- (35) *Tu sais, rien n'est plus complexe que d'élever un enfant.* (Marc Levy, *Et si c'était vrai...*, Collection Pocket, 2000, pp.178-179)

他方、Tu vois タイプの談話標識を含む動詞文から Tu vois タイプの談話標識を除去した残りの部分は、従属節として使用することのできる実現形であってよい。たとえば (34) から tu vois を除去した残りの部分 (tu mens aussi mal que moi) は、従属節として用いることのできる実現形 (動詞文) である。同様に (35) から tu sais を除去した残りの部分 (rien n'est plus complexe que d'élever un enfant) は、従属節として用いることのできる実現形 (動詞文) である。つまり Tu vois タイプの談話標識を含む動詞文から Tu vois タイプの談話標識を除去した残りの部分は、それを従属節として用いることができる場合、非間投詞記号素的な実現形であると考えられる。従属節として使用することができる独立な実現形だからである。

したがって Tu vois タイプの談話標識は、非間投詞記号素的な実現形を、いわば間投詞化することができると考えられる。たとえば (34) における tu vois の存在は、非間投詞記号素的な実現形 (tu mens aussi mal que moi) を間投詞記号素の実現形に統辞的に接近させている。(35) における tu sais の存在は、非間投詞記号素的な実現形 (rien n'est plus complexe que d'élever un enfant) を間投詞記号素の実現形に統辞的に接近させている¹¹。

4.1.2 Tu vois タイプの実現形と非間投詞化

Tu vois, P (談話標識 tu vois と文が共起している状態) と変形関係にある Tu vois que P (談話標識ではない実現形 tu vois と従属節が共起している状態) は、基本的に、従属節として使用することのできる実現形である。たとえば (36) の tu vois bien qu'elle est verte de jalousie という実現形は、全体として、

¹¹ 間投詞的な文と非間投詞的な文の弁別について、川島 (2020) を参照。

統辞的に従属節として使用することのできる実現形である (たとえば *je sais que tu vois bien qu'elle est verte de jalousie* など)。また (37) の *tu sais que je ne pense pas à mal en disant ça* という実現形は、全体として、統辞的に従属節として使用することのできる実現形である (たとえば *je sais que tu sais que je ne pense pas à mal en disant ça* など)。

(36) *Tu vois bien qu'elle est verte de jalousie.* (Amélie Nothomb, *Antéchrista*, Collection Le Livre de Poche, 2003, p.106)

(37) *Tu sais que je ne pense pas à mal en disant ça.* (Dennis Etchison, *Rêves de sang*, Collection Le cabinet noir, 1998, p.195)

Tu vois que P タイプの構文は、したがって、非間投詞記号素的な実現形であると言ってよい。Tu vois que P タイプの構文は、統辞的な観点において、従属節として使用する可能性を備えた (独立的な) 実現形だからである。

4.2 Heureusement タイプの文副詞と間投詞的性格の有無

4.2.1 Heureusement タイプの文副詞と間投詞化

Heureusement, P (文副詞 *heureusement* と文が共起している状態) と変形関係にある *Heureusement que P* (実現形 *heureusement* と従属節が共起している状態) は、基本的に、従属節として使用することのできない実現形である。たとえば (38) の *heureusement que David vit dans un monde imaginaire* という独立的な実現形は、それ全体として、従属節として用いることのできない実現形である。同様に (39) の *bien sûr qu'elle allait y aller* という独立的な実現形は、全体として、従属節として用いることのできない実現形である。

(38) *Heureusement que David vit dans un monde imaginaire.* (Frédéric Beigbeder, *Windows on the World*, Collection Folio, 2003, p.210)

(39) *Bien sûr qu'elle allait y aller.* (Maxime Chattam, *Le sang du temps*, Collection Pocket, 2005, p.62)

したがって *Heureusement que P* タイプの構文は、間投詞記号素的な実現形であると言えることができる。*Heureusement que P* タイプの構文は、独立的な実現形であると同時に、従属節として用いることができない実現形でもある(2.2を参照)。

4.2.2 *Heureusement* タイプの文副詞と非間投詞化

Heureusement タイプの文副詞を含んだ動詞文は、基本的に、従属節として使用することのできる実現形である。たとえば(40)において *malheureusement* を含む *elle ferme malheureusement dans dix minutes* は、それ全体を従属節として用いることができる実現形である。同様に(41)において *peut-être* を含む *le meurtrier connaît peut-être la mère de Mélanie ainsi que Marcel Blanc* は、それ全体を従属節として用いることができる実現形である。

(40) Elle dit qu'elle ferme *malheureusement* dans dix minutes. (Sébastien Japrisot, *L'été meurtrier*, Collection Folio, 1977, p.205)

(41) Je disais que le meurtrier connaît *peut-être* la mère de Mélanie ainsi que Marcel Blanc. (Brigitte Aubert, *Descentes d'organes*, Collection Points, 2001, p.98)

つまり *Heureusement* タイプの文副詞を含んだ動詞文は、従属節として用いることが可能な独立的な実現形であるという点で、非間投詞記号素的な実現形であると考えてよい。実際(40)における *elle ferme malheureusement dans dix minutes* は、非間投詞記号素的な実現形である(2.2を参照)。同様に(41)における *le meurtrier connaît peut-être la mère de Mélanie ainsi que Marcel Blanc* は、非間投詞記号素的な実現形である。

4.3 Tu vois タイプの実現形と Heureusement タイプの実現形の非パラレルな 関係性

Tu vois タイプの談話標識を含む動詞文は、間投詞記号素的な実現形である。Tu vois タイプの談話標識は動詞文を、いわば間投詞記号素の実現形に、統辞的に接近させる (4.1.1 を参照)。たとえば (42) の *tu vois, si j'avais un portable, ce serait plus pratique* は、全体として、従属節として用いることのできない独立的な実現形である。

(42) *Tu vois, si j'avais un portable, ce serait plus pratique.* (Katherine Pancol, *Les yeux jaunes des crocodiles*, Collection Le Livre de Poche, 2006, p.438)

(43) *Vous voyez bien que j'ai de la mémoire.* (Tonino Benacquista, *Saga*, Collection Folio, 1997, p.204)

(44) *Heureusement, je ne suis pas aussi singulière qu'elle.* (*Elle*, 24 janvier 2005, p.46)

(45) *Heureusement que la vie était belle.* (Philippe Djian, *37° 2 le matin*, Collection J'ai lu, 1985, p.237)

Tu vois que P タイプの構文は、非間投詞記号素的な実現形である。Tu vois que P タイプの構文は、独立的な実現形であると同時に、従属節として使用する可能性を備えた実現形でもある (4.1.2 を参照)。たとえば (43) の *vous voyez bien que j'ai de la mémoire* は、従属節として用いることのできる独立的な実現形である。

Heureusement タイプの文副詞を含んだ動詞文は、非間投詞記号素的な実現形である。Heureusement タイプの文副詞を含んだ動詞文は、独立的な実現形であると同時に、従属節として使用する可能性を備えた実現形でもある (4.2.2 を参照)。たとえば (44) の *heureusement, je ne suis pas aussi singulière qu'elle* は、その全体を従属節として用いることのできる独立的な実現形で

ある。

Heureusement que P タイプの構文は、間投詞記号素的な実現形である。Heureusement que P タイプの構文は、独立的な実現形であると同時に、従属節として用いることができない実現形でもある (4.2.1 を参照)。たとえば (45) の *heureusement que la vie était belle* は、従属節として用いることのできない独立的な実現形である。

したがって、Tu vois タイプの実現形と Heureusement タイプの実現形の間には、非パラレルな関係性があると言ってよい。Tu vois タイプの談話標識を含む動詞文が間投詞記号素的な実現形であるのに対して、Heureusement タイプの文副詞を含んだ動詞文は非間投詞記号素的な実現形である。Tu vois que P タイプの構文が非間投詞記号素的な実現形であるのに対して、Heureusement que P タイプの構文は間投詞記号素的な実現形である。

5. おわりに

Tu vois, P (談話標識 *tu vois* と動詞文が共起している状態) と Tu vois que P (談話標識ではない実現形 *tu vois* と従属節が共起している状態) の間には、統辞的な変形関係がみられる。たとえば (46) にみられるように、談話標識としての *tu vois* は、動詞文と共起することができる。また (47) にみられるように、*tu vois* という (談話標識ではない) 実現形は、従属節と共起することもできる。Tu vois, P から Tu vois que P への変形は、P の従属節化変形である。Tu vois que P から Tu vois, P への変形は、P の主節化変形である。このような変形関係をもちうる談話標識を、Tu vois タイプの談話標識と呼ぶことにしよう。

(46) J'étais un gamin, *tu vois*, je pouvais à peine le soulever. (Sébastien Japrisot, *Adieu l'ami*, Collection Folio, 1968, p.22)

(47) *Tu vois* que tout est son. (Olivier Manitar, *L'initiation du Temple*

Egyptien, Essénia, 2019, p.141)

(48) *Heureusement*, son époux avait de l'humour. (Nicole de Buron, *Chéri, tu m'écoutes ?... alors répète ce que je viens de dire...*, Collection Pocket, 1998, p.116)

(49) *Heureusement* que j'ai changé. (Guillaume Musso, *Et après...*, Collection Pocket, 2004, p.240)

Heureusement, P (文副詞 *heureusement* と動詞文が共起している状態) と *Heureusement que P* (実現形 *heureusement* と従属節が共起している状態) の間には、統辞的な変形関係がみられる。たとえば (48) にみられるように、文副詞としての *heureusement* は、動詞文と共起することができる。また (49) にみられるように、*heureusement* という実現形は、従属節と共起することもできる。*Heureusement, P* から *Heureusement que P* への変形は、P の従属節化変形である。*Heureusement que P* から *Heureusement, P* への変形は、P の主節化変形である。このような変形関係をもちうる文副詞を、*Heureusement* タイプの文副詞と呼ぶことにしよう。

Tu vois タイプの談話標識と *Heureusement* タイプの文副詞の間には、パラレルな関係性を認めることができる。Tu vois タイプの談話標識と *Heureusement* タイプの文副詞は、いずれも、文の従属節化および従属節の主節化という変形関係に関与しうるからである。

Tu vois タイプの談話標識を含む動詞文は、間投詞記号素的な実現形である。たとえば (46) は、全体として、従属節として用いることのできない独立的な実現形である。

Tu vois que P タイプの構文は、非間投詞記号素的な実現形である。たとえば (47) は、独立的な実現形であると同時に、従属節として用いることができる実現形でもある。

Heureusement タイプの文副詞を含んだ動詞文は、非間投詞記号素的な実現

形である。たとえば (48) は、独立的な実現形であると同時に、従属節として使用する可能性を備えた実現形でもある。

Heureusement que P タイプの構文は、間投詞記号素的な実現形である。たとえば (49) は、独立的な実現形であると同時に、従属節として用いることができない実現形でもある。

したがって、Tu vois タイプの実現形と Heureusement タイプの実現形の間には、非パラレルな関係性があると言うことができる。Tu vois タイプの談話標識を含む動詞文が間投詞記号素的な実現形であるのに対して、Heureusement タイプの文副詞を含んだ動詞文は非間投詞記号素的な実現形である。Tu vois que P タイプの構文が非間投詞記号素的な実現形であるのに対して、Heureusement que P タイプの構文は間投詞記号素的な実現形である。

参考文献

- Bloomfield, Leonard (1933), *Language*, Holt.
- Gross, Maurice (1975), *Méthode en syntaxe : régime des constructions complétives*, Hermann.
- 川島浩一郎 (1999) 「等位接続詞 mais と非動詞文 oui, si, non について」『言語・地域文化研究』第 5 号, 東京外国語大学大学院地域文化研究科, pp.43-55.
- 川島浩一郎 (2004) 「フランス語の間投詞について」『福岡大学研究部論集』第 4 巻第 4 号 A : 人文科学編, 福岡大学, pp.21-32.
- 川島浩一郎 (2008) 「Bien sûr que je t'aime 型の構文をめぐる一考察」『福岡大学研究部論集』A : 人文科学編 Vol. 8 No. 2, 福岡大学, pp.21-32.
- 川島浩一郎 (2020) 「間投詞的な文と非間投詞的な文 従属という概念をめぐる」『ふらんぼー』第 45 号, 東京外国語大学フランス語研究室フランス研究会, pp.51-70.
- 川島浩一郎 (2021a) 「独立記号素における非自律性 動詞記号素、命題的記号素、間投詞記号素」『ふらんぼー』第 46 号, 東京外国語大学フランス語研究室フランス研究会, pp.41-60.

- 川島浩一郎 (2021b) 「動詞由来の談話標識における自律性と非自律性の弁別—フランス語の tu vois と tu sais を例として—」『福岡大学人文論叢』第 53 巻第 1 号, 福岡大学研究推進部, pp.57-74.
- 川島浩一郎 (2021c) 「談話標識 tu vois および tu sais における統辞機能の成立基盤」『福岡大学人文論叢』第 53 巻第 2 号, 福岡大学研究推進部, pp.269-287.
- 川島浩一郎 & 肖宜桐 (2021) 「従属節における談話標識 tu vois および tu sais の不在と認識のズレの不在—命題的な文と間投詞的な文—」『福岡大学研究部論集』A: 人文科学編 Vol. 21 No. 3, 福岡大学研究推進部, pp.1-8.
- Martinet, André (1979), *Grammaire fonctionnelle du français*, CREDIF.
- Martinet, André (1985), *Syntaxe générale*, Armand Colin.
- Meillet, Antoine (1903), *Introduction à l'étude comparative des langues indo-européennes*, Hachette et Cie.
- 肖宜桐 (2021) 『談話標識 tu vois の意味機能研究』(福岡大学大学院人文科学研究科修士論文)